

2012年度の取り組み

今年度、ユネスコスクール班には高校2～3年生の20名の生徒が所属しました。ユネスコスクール班は、2012年度の研究や実践のテーマを「経済活動から世界との関係を考える」に設定し、このテーマに沿って担当教員が経済や商業、貿易に関する講座・ワークショップを数多く実施しました。また、外部講師による環境問題に関する講座も数回受講しました。2013年2月には、ESDに関する書籍シリーズの最後となる『ユネスコスクールによるESDの実践』をアルテより出版しました。詳しくは以下をご覧ください。

「環境の達人」による講座

7月中旬に2回、秋田県の「環境の達人」地域派遣事業により、秋田県内のNGO RASICA代表の菊地格夫氏が、体感を重視した参加型の環境講座を2回行いました。2回目は、大仙市立大曲南中学校の3年生42名が参加して、学校の中庭や体育館で実施しました。



AKI SHOPでの取り組み



今年度のテーマ「経済活動から世界との関係を考える」に関連した研究発表や、夏休み中にネパール・スタディツアーに参加した2名の生徒による活動報告を市民の前で行ったほか、RASICAによるコーヒー提供を手伝ったり、秋田杉廃材から持ち運び用の箸を作るコーナーや、ポリプロピレン製のバンドから鉛筆立てを作るコーナーを設置したりしました。

地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞

「小中学生・市民対象の講座実施と書籍（『高校生のための地球環境問題入門』）の出版が評価され、平成24年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰（環境教育・普及啓発部門）を受賞しました。東京で行われた表彰式には校長と担当教員1名が参加しました。



「経済活動から世界との関係を考える」をテーマとした連続講座



ユネスコスクール班の活動は「ビジネス実践」という総合的な学習の時間の枠組みの中で行われているため、今年度は例年以上に、「ビジネス」に関連した活動を心がけました。今年度のテーマに沿って、貿易ゲームなどの参加型の各種講座・ワークショップを実施しました。主なものは次の通りです。

月日	活動内容	授業内容・目標
6月14日	異文化との出会い ～異文化から考える アイデンティティー ～	【授業内容】コミュニケーションギャップについて考え、自分の行動が環境や文化によって変化することをWS形式で感じる。 【目標】多様な文化に生きる中で自分の立ち位置を明確にし、他との比較により自分らしさ（アイデンティティー）を見つける。
6月21日	文化の変容 ～ことばと食から見る 文化の変化～	【授業内容】文化と文化の架け橋となる私たちは「文化の運搬者」であることを自覚することを必要とされている。ということを用いながら学習する。 【目標】「文化」＝生きるための工夫であることを感じる。
8月30日	豊かさの基準 ～地球規模で考える 在り方・生き方～	【授業内容】「豊かさ」の基準「幸せ」の基準を考察する。「幸せ」「豊か」表現する。 【目標】「豊か」＝量的「幸せ」＝個人のものさしを理解する。
9月13日	「自分らしく」より 「自分たちらしく」	【授業内容】前回の内容を踏まえ、世界経済が日本に与えている影響をファーストフードから考察し、大量生産化されていく企業のスタイルと日本が本来持っている「食」とを関連づけて「自分たちらしさ」を考えていく。 【目標】「自分たちらしさ」とは日本らしさ、地域らしさから生まれるものだと実感し、自分の生活を見直すきっかけを作る。
9月20日	Let's Trade!! (貿易ゲーム)	【授業内容】GNIから算出されたデータをもとに世界を1クラスに表現。製造、流通の仕組みを体験する。また、需給バランスから価格変動を起こしたり、NGO職員の役割を担う生徒を入れフェアトレードを実践させるなどの工夫を施す。 【目標】流通の仕組みにおいて、私たち日本人が関与していることにより、成り立っていること、搾取されている現実があることを知る。また「当たり前」過ぎて分からない事が多々あることを知る。
9月27日	あなたを幸せにする ものは何ですか？ ～What would make you happy?～	【授業内容】「幸せ」という抽象的な課題に対し、GNP・GDPを基準に「豊かさ=P」をもとに考察を図る。前回作成し余った紙を使用して「幸せとは?」「将来の夢」についてそれぞれ思いを表現する。 【目標】「幸せ」について考察する。
10月4日	世界と良い関係を築くビ ジネスモデルコンペ① (case study approach)	【授業内容】 これまでの授業から、生徒等の考えるビジネスモデルを班ごとにまとめ発表の準備をする。なお、プレゼンによる発表会とし、審査員の投票と生徒等の投票で順位を決める。
10月18日	世界と良い関係を築くビ ジネスモデルコンペ② (発表会)	【授業内容】 発表会とし、審査員と生徒等の投票によって順位を決める。なお、方法はプレゼンとする。

その他の講座も含めて、今年度のユネスコスクール班の学習活動について詳しくは、「2012年度年間学習活動内容」をご覧ください。

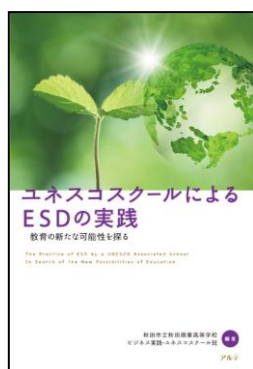
ネパール・スタディツアー2013

秋田県内のNGO RASICAが主催する夏のネパール・スタディツアーに3年生2名、青年海外協力隊秋田県OB会およびRASICAが主催する冬のネパール・スタディツアーに別の3年生2名が参加しました。

詳しくは、「ネパール・スタディツアー2013」をご覧ください。



『ユネスコスクールによるESDの実践』の出版



ユネスコスクール班が発行してきたESDシリーズの最終刊として、大学等研究者13名から寄稿してもらい、2013年2月に『ユネスコスクールによるESDの実践——教育の新たな可能性を探る』という本をアルテより出版しました。この本は、日本からのESDの提案や、ESDと環境教育、国際理解教育、ホリスティック教育、スピリチュアリティとの関連のほか、学校におけるESD実践の課題、ユネスコの起源とその理念、ユネスコスクールによるESDの推進など、様々な角度からESDの可能性を追求しています。この本の概要は以下の通りです。

内容紹介

学校において今なぜ、ESD（持続発展教育）が必要なのか。環境教育、国際理解教育、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）、ユネスコスクール、ホリスティック教育、スピリチュアリティなど、多様な観点からESDの魅力に迫るとともに、ESDをとりかかりとして教育の新たな可能性を探る。

編者について

総合的な学習の時間における校内組織の一つ。2007年に国際協力課として発足後、『高校生のための国際協力入門』（2008年）を編集、2009年以降はユネスコスクール班として、『高校生のための国際連合入門』（2009年）、『高校生のためのアフリカ理解入門』（2010年）、『高校生のための地球環境問題入門』（2012年）を編集した（いずれもアルテ刊）。このような活動が評価され、秋田商業高校は2011年に、NPO法人日本持続発展教育（ESD）推進フォーラム主催第2回ESD大賞において高等学校賞を受賞している。

目次

第一章 ESDとは何か

I 日本からのESDの提案

阿部 治（立教大学社会学部教授／E S D研究所長）

II 国際理解教育と持続発展教育（E S D）

市瀬智紀（宮城教育大学附属国際理解教育研究センター教授）

III 環境教育とE S D

佐藤真久（東京都市大学環境学部准教授）

第二章 ユネスコスクールによるE S Dの推進

I ユネスコの起源とその理念

岩間 浩（岩間教育文化科学研究所主宰）

II ユネスコにおけるE S Dの国際的取組と展望

佐藤真久（東京都市大学環境学部准教授）

III 民間ユネスコ活動とE S D

寺尾明人（日本ユネスコ協会連盟事務局次長兼教育文化部長）

IV E S D推進のためのユネスコスクールの役割

米田伸次（元帝塚山学院大学国際理解研究所所長）

第三章 学校におけるE S Dの実践

I E S Dの視点に立った学習指導

五島政一（国立教育政策研究所総括研究官）

II 学校における持続可能な発展のための教育の推進

多田孝志（目白大学人間学部教授）

III 為せばなる

太田 直（秋田商業高校ユネスコスクール班担当教員）

第四章 ホリスティック教育とE S D

I ホリスティック・アプローチとは何か

中川吉晴（同志社大学社会学部教授）

II E S Dにおけるホリスティックなアプローチの可能性

成田喜一郎（東京学芸大学大学院教育学研究科教授）

III サステイナビリティと教育

吉田敦彦（大阪府立大学大学院人間社会学研究科教授）

第五章 教育におけるスピリチュアリティ

I クリシュナムルティの教育思想

金田卓也（大妻女子大学家政学部教授）

II アリス・ベイリーが伝えた情報とその教育思想

神尾 学（ホリスティック・リーディング研究所代表）

III スピリチュアリティとE S D

大堤直人（秋田商業高校ユネスコスクール班担当教員）